

令和7年9月25日

# 由利本荘市総合教育会議

## 議 事 録

□日時

令和7年9月25日(木) 午後3時

□場所

由利本荘市役所 4階 正庁

□出席者

市長	湊 貴 信
教育委員会教育長	秋 山 正 毅
教育委員会教育長職務代理者	小 坂 綾 子
教育委員会委員	佐 藤 道 昭
教育委員会委員	佐 藤 美 帆
教育委員会委員	嵯 峨 泰 治

□案件

1. 市長あいさつ
2. 報告
3. 協議

「由利本荘市教育の振興に関する施策の大綱」について

4. その他

(事務局職員)

総務部長	高 橋 重 保
教育次長	熊 谷 信 幸
総務課長	三 浦 啓 助
教育委員会教育総務課長	三 浦 雄 一 郎
教育委員会主幹兼学校教育課長	村 上 雅 美
教育委員会生涯学習課長	佐 藤 錠 司
教育委員会本荘教育学習課長	佐々木 錬
教育委員会中央図書館長	越 川 憲 光
教育委員会教育総務課参事兼課長補佐兼総務班長	菅 野 基
総務部総務課参事兼課長補佐	工 藤 将

(職員)

文化・スポーツ課長	長谷川 潤 一
健康づくり課母子保健班長	富 田 和 優 美
こども未来課参事兼課長補佐	三 浦 真 由 美
こども未来課課長補佐兼児童支援班長	種 村 誠
こども未来課幼保推進班長	佐々木 健 二

(開会 午後3時)

三浦総務課長

それでは、ただ今から、  
「令和7年度 第1回 総合教育会議」を開会いたします。  
はじめに湊市長より、あいさつを申し上げます。

湊市長

開会にあたり、一言、ごあいさつ申し上げます。  
本日は大変ご多忙のところ、ご出席をいただき、誠にありがとうございます。  
また、皆様には、日頃より、市政の推進に、深いご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。  
中でも、教育行政の推進につきましては、日夜ご尽力いただいているところであり、重ねて御礼申し上げます。

今年、由利本荘市が誕生してから20周年の記念すべき年であり、来月の11日には、カダーレにおいて記念式典を開催することとしております。

教育委員の皆様にもご案内をさせていただいたところであり、成田洋一監督制作の記念映像や、磯田道史先生の記念講演を楽しみにしていただきたいと存じます。

また、20周年事業として先に開催いたしました「のど自慢」や「大相撲」は会場が満員となるなど大変盛況であり、多くの市民の皆様喜んでいただきました。

今回の記念式典につきましても多くの方々に、ご参加いただき、式典を通して、市民の皆様から由利本荘市への愛着と誇りを再認識していただくとともに、市の持続的な発展に向けた未来へのスタートの契機としてまいりたいと考えております。

さて、今年度の総合教育会議は、来年度から始まります、「由利本荘市教育、学術及び文化の振興に関する施策の大綱」が議題となります。いわゆる教育大綱につきましては、同じく来年度から始まります市の最上位計画である総合計画の教育施策に関する箇所を次期教育大綱とすることを昨年度、委員の皆様からご承諾いただいたところでもあります。

本日は、現在、策定作業をしております、次期総合計画の教育施策の箇所を事務局より説明させていただきますので、皆様から忌憚のないご意見を頂きたいと考えております。

将来の由利本荘市、そして日本を背負っていく子どもたちに、必要な教育施策を定めていくための大綱となりますので、本日は、何卒よろしく願いいたします。

三浦総務課長

ありがとうございました。

本日は、次第にしたがいまして、はじめに、教育長・学校教育課長より報告をいただき、次に、教育委員会事務局より協議の「由利本荘市教育の振興に関する施策の大綱」について説明、及び、事前に教育委員の皆様から頂いていたご質問への回答を行った後、市長と教育委員の皆様による意見交換を行っていただきます。

皆様におかれましては、ご自由に幅広くご意見を出していただきたく、よろしくお願いいたします。

また、議事録作成の関係で、発言する際には、マイクを使用させていただきますようお願い申し上げます。

それでは、以後の進行については、市長に行ってください。  
市長、よろしくお願いいたします。

湊市長

それでは、次第に従いまして、進行してまいります。  
2の「報告」をお願いいたします。

秋山教育長

それでは私から何点か教育委員会としての今年度の取り組みと現状について報告いたします。

この写真ですが、7月26日の本荘川まつり花火大会で、鶴舞小学校児童会によるメッセージ花火が打ち上げられました。別れゆく校舎への思いを校歌とともにメッセージを花火に託し、夜空に打ち上げた様子です。

次に、第二次学校環境適正化計画に基づき、本荘地域の学校再編が大詰めを迎えています。本荘地域では北・南・東のブロックで小中1校ずつ接続し、9年間学びの持続性を意図した学校編成となります。これに伴い来年3月に閉校する小学校は子吉小学校を皮切りに、尾崎小学校、11月には小友小学校の閉校式典が行われます。

次に、本荘東中学校隣接地に建設中の本荘東小学校は、来年4月の開校に向けて順調に工事が進んでいます。また、新山小学校では9月1日から新しい児童玄関の利用が始まり、これにより旧校舎と完全に切り離され、旧校舎の解体が進んでいます。工事車両の動きが児童生徒の活動と重なるため、児童生徒への安全指導と施工業者への事故防止徹底を最重点に進めています。

次に、社会教育の取り組みで、本荘郷土資料館では、昭和100年・戦後80年の節目にあたり、4月26日から8月24日まで「昭和百年 平和を願う心」企画展を開催し、多くの来場者に好評を得ました。

なお、9月20日からは昨年度寄贈された本荘初代藩主・本荘光茂ゆかりの資料展を開設しています。

最後に、毎年実施している芸術鑑賞教室では、今年は中学校の部

で和泉流・和泉元彌一座による狂言ライブを市内全中学校の生徒を対象に開催しました。普段接する機会の少ない伝統文化を身近に感じ、生徒たちは舞台やトークに真剣に聞き入っていました。このような学びの機会は子どもたちの成長にとって非常に大切であると再認識しました。

なお、昨年この会議で提言頂いた新しい英語の学びについては、学校教育課長より報告いたします。

私からは、以上であります。

村上主幹兼学校教育課長

それでは私の方から、「イングリッシュディの取組」と「ゆりほんICT子どもの学びアップデートプラン進捗状況について」を報告させていただきます。

市内各小中学校の外国語教育の推進について、今年度より各校の特色を生かしたイングリッシュディの取り組みを開始しました。4月には市教職員研修会で教育長より目的を説明し、児童生徒が英語に親しみ、自ら進んでコミュニケーションを図ろうとする態度を育むことを目指しています。

実施回数は各校に一任していますが、週1回程度、ALTの勤務日に合わせて実施している学校がほとんどです。内容は、子どもと教職員と一緒に楽しめる英語ゲーム、対話を通じたコミュニケーション活動、英語絵本の読み聞かせなど、準備に無理のない持続可能なものをお願いしています。

英語担当以外の教職員にも目的や意義を理解し、英語に慣れ親しんでもらうため、8月5日にカダレで教職員研修会を開催しました。研修ではイングリッシュデーの実践事例紹介や演習を行い、すべてALTコーディネーターが英語で進行しました。5校から事例紹介がありました。

#### 【事例紹介】

・東由利小学校

初めての取り組みで、全教職員による話し合いを重ね、職員が主体的に取り組む体制を確立しました。校長も積極的に関わり、玄関で英語挨拶をするなど、全校児童と教職員が楽しく英語に親しむ雰囲気生まれています。特に、校長が積極的に関わっている点、そして、過度な負担のない持続可能な取組である点が他校の参考になりました。

・鳥海小学校

小中連携で英語に親しむ校内環境づくりについて紹介がありました。ALTと担任が協力し、発達段階に応じた英語掲示物を準備し、無理なく楽しく学べる環境を整えています。

・鳥海中学校

バースディカードを作成し教室に掲示。話す・聞く活動だけでなく、書く・読む活動にも積極的に取り組み、学習意欲が高まっています。

イングリッシュディには全校生徒と教職員と一緒に英会話活動を行うなど、小規模校ならではの工夫が見られます。

・西目中学校

朝の挨拶運動や放送、給食メニュー紹介を英語で実施。生徒発案によるイングリッシュクラブやディスカッションなど、発展的な活動を積極的に取り入れています。

・矢島小学校

英語絵本の読み聞かせの紹介、デジタル教科書や電子黒板を活用し、楽しく取り組めるプリントを紹介、ALT不在時はICT機器を活用する学校が増えています。

研修の後半はALTコーディネーターとALTによる演習を行いました。準備に時間がかからず、グループで楽しく取り組める活動に挑戦。参加者は英語だけで意思を伝え合う体験をし、英語力よりも楽しさを重視する活動の幅が広がることを学びました。

研修はすべて英語で進行しましたが、ほとんどの参加者が楽しく取り組み、夏休み明けに自校で取り入れたいとの感想が多く寄せられました。今後も各校の実情に応じて実践を重ねていきます。

続いて、ICT子どもの学びアップデートプラン進捗状況を報告いたします。

昨年度に引き続き、今年度もICT支援員の各校への派遣、学習者用デジタル教科書の導入、タイピング競技会や3Dプリンター創作教室を実施しています。

学習者用デジタル教科書は国の事業を活用し、英語は小学校5年生以上から中学3年生まで全校に導入、算数・数学は隔年で半数の学校に導入しています。各校で活用が進んでいます。

こちらは全小中学校に配布したタイピング競技会のチラシです。9月18日時点で延べ1,280人が挑戦し、タイピング技術は大きく向上しています。競技会は今月末で終了いたします。来年の全国学力テストでは中学3年生に英語が追加され、読む・書く・聞く・話すの全てがCBT化されます。タイピング技術が得点差にならないよう、競技会終了後も各校で練習を続けます。

最後に、本市のALT3名が子吉川レガッタに参加した際の写真です。市民との交流は貴重な経験となっており、今後も学校だけでなく、市のイベントや活動への参加を通じてALTの活躍の場を広げていきます。

湊市長

報告が終わりましたが、ご質問やご意見はありませんでしょうか。英語とITは私の思いとしてもぜひ進めて頂きたいと思います。それでは、次に、3の「協議」に入ります。事務局より、説明をお願いします。

私の方から教育大綱について説明させていただきます。

教育大綱は、地方公共団体の教育・学術・文化の振興に関する総合的な施策の目標や方針を定めるものです。地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、地方公共団体の長が総合教育会議で教育委員会と協議し大綱を策定します。文部科学省は、大綱の期間を4から5年程度とし、総合計画と重なることを想定しています。総合計画の目標や方針部分を大綱に位置づけることができるため、総合計画をもって教育大綱とする場合、個別策定は不要です。本市では今年度策定する総合計画の該当部分を教育大綱とする方針で、昨年度、委員の皆様にご了承いただいております。

はじめに、教育大綱の基となる総合計画の概要を説明いたします。

総合計画は、概ね10年後のまちの目指す姿を基本構想として示し、その実現に向けた施策を基本計画としてまとめています。計画期間は令和8年度から11年度までの4年間となります。

基本構想では、10年後のまちの姿を「市民一人ひとりが希望を叶え、自分らしく暮らすまち」とし、その実現に向けて6つの基本政策を掲げています。

教育大綱に関わる部分は、基本政策5「教育・人づくり政策」と基本政策2「観光交流政策」です。

#### 教育大綱に関わる抜粋【資料3-1】

・取組と目指す姿の1番目「ふるさと愛に満ち、創造性にあふれるひとづくり」を教育の目指す姿として、『ふるさと愛、学びの場の創出』の具現化に努めます。

○政策5-（1）教育「ふるさと愛に満ち、創造性あふれるひとづくり」

教育大綱に関わる施策の方向性は以下の4点です。

- ①進取の気性を育む教育と豊かな心の育成
- ②学校づくりと地域づくりを生かしたふるさと愛の醸成
- ③教育の相互連携の推進
- ④教育環境の向上

・取組と目指す姿の2番目「子どもの健やかな育ちの実現と、子育ての楽しさや喜びを実感できるまちづくりを目指します。」

○政策5-（2）子ども・子育て・家庭「喜びあふれる子育て環境づくり」

教育大綱に関わる施策の方向性は以下の1点です

- ②児童から思春期の健全育成環境の向上

・取組と目指す姿の3番目「生涯学習の環境づくりや、ふるさとの自然や歴史・文化を基調とした「郷育」の充実を図りながら、本市

が魅力あるまち、住みやすいまちを目指すとともに、「ここに生きる喜びづくり」につなげます。」

○政策５－（３）生涯学習「生涯学習による魅力あふれるまちづくり」

教育大綱に関わる施策の方向性は以下の２点です。

- ①生涯学習の推進と学びの場の創出
- ②文化財保護の推進

・取組と目指す姿の最後４番目「芸術に触れる機会づくり、市民の意欲あふれる芸術文化のまちづくりを進め、文化財の保存・継承による地域文化の振興を図ります。」

○政策２－（２）文化・スポーツ「すべての世代が心豊かで健康に暮らせるまちへ」

教育大綱に関わる施策の方向性は以下の点です

- ①にぎわいの場の創出と芸術文化の振興

また、教育委員の皆様からは、事前に目指す姿の実現に向けた施策の方向性に関わる主な取組内容について多くのご意見をいただいております。

それらの意見と各課の対応については、【資料３－４】に回答としてまとめておりますので、ご確認お願いいたします。

代表的な意見の力を入れて欲しい分野は、

- ・中学校部活動の地域移行への取り組み充実
- ・子どものニーズに応じた教育推進
- ・外国語コミュニケーションスキル育成
- ・ICT活用による質の高い学びの実現
- ・人との関わりを通じた人づくり

これらを教育大綱の施策に反映し、調整を進めてまいります。

最後に【資料３－２】教育大綱の策定スケジュールは、市の総合計画の策定スケジュールに合わせて進めます。本日の会議は第１回総合教育会議ですが、１０月の教育委員会協議会を挟み、１１月開催の第２回総合教育会議で最終原案を提示する予定です。

以上で事務局からの説明を終わります。

湊市長

説明が終わりましたが、皆様から順番に、お聞きしてまいります。

特に、各施策の取り組みの元となる「目指す姿」についてご意見をいただきたいと思いますが、その他の部分でも構いませんので、よろしくお願いいたします。

はじめに、教育長お願いします。

秋山教育長

基本政策の「ふるさと愛に満ち、創造性あふれる人づくり」を目指すため、「社会の急速な変化に対応し、自らの生涯を生き抜く力を培うとともに、ふるさと由利本荘に誇りと愛着を持てるひとづくり」を教育の柱に据えたとき、一人ひとりが学ぶ喜びを感じられる教育のあり方が重要です。英語の学びを日常の学校生活に取り入れることで、単なる知識ではなく、人と人をつなぐツールとして活用できるようにしたいと考えています。英語を使えることで、音楽や文学、人との関わりなど世界が広がる実感を子どもたちに持って欲しいと思います。

私自身、中学校時代にビートルズの曲を英語で歌おうとした経験があります。あのとき、みんなで英語で歌うことができれば本当に楽しかったのだろうなと思ったりします。英語のフレーズの楽しさは今でも心に残っています。これからの時代は、空間を超えた人とのつながりが当たり前になるでしょう。現状でも、例えば私たちが買い物をアマゾンでした時にどこから物が来るのか、もしかして相手は外国の人じゃないのかって思うことがよくあります。ちょっとした商売であっても、地域とか国を飛び越えるのが、もう普通になってきているんだなというふうに思います。どこに住んでいても広い視野を持ち、自己肯定感を育み、今住んでいる身近な自然や環境に誇りを持てる学びを大切にしたいと考えています。

湊市長

それでは、次に、小坂 教育長職務代理者、お願いいたします。

小坂教育長職務代理者

「ふるさと愛、学びの場の創出」という言葉は素晴らしいですが、初めて見る人に分かりやすいよう、目指す姿として、「ふるさと愛、学びの場の創出」をキャッチフレーズとして、体験的な学びの場を創出し、ふるさと愛と創造性を育む教育の具現化に努めるという説明を加えると良いと思います。

また、「進取の気性」というのは、新しいことに積極的に取り組んで、意欲的で冒険心のある気質や性質ということを示していますので、次の文章の児童生徒の基礎基本の定着を図るというのは、「主体性を育む基礎学力の向上を図る」というふうにしてはいかがでしょうか。

次に、「学びに生かす学校図書館の充実」のところは、多様な学びのニーズに対応できる学校図書館とICTを充実したギガスクール構想などを推進します。という、今、実際に由利本荘市で進めている子ども達の主体性や多様な学びのスタイルに適應できる、そういうきめ細かな教育を表現できるのではないかと。そして、これから十年間、これを実践していくことで、さらに由利本荘市の子どもたちがたくましく成長していくのではないかなということを祈念しております。

湊市長

ありがとうございました。  
いろいろと具体的な提案をいただきました。  
次に、佐藤道昭委員よろしく願いいたします。

佐藤道昭委員

今回の大綱については、10年先を見据えてと言うことで、具体的なことは、その都度示していけば良いと考え、今回の大綱、ゆりほん未来プランについては、およそこのままでよろしいと考えております。

私はそれぞれ委員からも様々な質問をさせていただきましたが、それに対してこの件はここに含まれるんですよと言うような形で回答いただきましたので、まずは私たちも安心しております。10年先ということで、先の話は見えないとはいえませんが、でも準備をしなければ間に合わないことも、この教育の現場というのは多いので、私たち、教育委員会といたしましては、教育の環境をまず整えるのが一番の仕事ではないかと思えます。授業とか、そういう教育の内容は、現場の仕事としても、その環境、先生方、そして学校本体、また子どもたちの環境、それを含めて、私たちはこれを見据えて、整備していかなければならないと思えますので、そういう点でもう今回の大綱は大まかな姿ではありますが、とても良い方針だと思えますので、これをもとに、またそれぞれその都度意見を出しながら毎回更新していければと思っておりますので、よろしく願いいたします。

湊市長

ありがとうございました。  
それでは次に佐藤美帆委員、お願いします。

佐藤美帆委員

目指す姿に「自らの生涯を生き抜く力を培う」とあります。自らの生涯を生き抜く力とは何か、となると、それぞれに基礎基本というのは異なってくると思えます。私の幼少期、小学校時代、中学校時代を思い出しても苦手の克服に費やす時間というのが、とても膨大にありました。それよりも、今の子どもたち、これから未来を生きていく子どもたちは、得意を伸ばすことに力を使ってほしいなと思えます。それは子どもたち自身の時間も、そこに費やしてほしいと思えますし、周りの教育者の方々も、そこに重点を置いて見守ってあげて欲しいなと思えます。

皆さんも大人になればわかることですが、道具を使うことができます。暗算で計算しなくても、それこそ電卓がありますし、また組織になってしまえば、自分が苦手なことを得意とする人たちが必ず

います。得意とする人たちに自分が苦手なことは任せて、自分の得意のところをやるということが一番効率的だし、生きやすいのかなと私自身思っております。

また、「児童生徒の基礎・基本の定着を図るとともに、小学校から外国語指導助手の積極的な活用」とあります。これも少し限定的すぎるのかなと思います。外国語イコール英語だけでは実際なくて、いろんな言語があります。私も大学に入ってから英語以外の外国語を学びました。中国語ですが、学んで見ると、日本語、英語、中国語で全然和訳も変わってくるんですよね。日本語で読んだとしても、人の感じ方はそれぞれ違うと思うのですが、英語を和訳したときもそれぞれ変わってくる。さらには中国語で思いついた言葉が日本語になかったりするんですよね。同じような意味合いが。そういった経験をするのが大学に入ってからというのは、ちょっと遅すぎたなと私自身は思っていて。先ほど教育長もおっしゃっていたのですが、楽しみながら、歌を歌いながら、英語に親しむのと同じように、別の言語でもこんなものがあるよというのを、英語を身につける段階で少しだけ知っておくのも、とてもいい経験になるのではないかなと思っております。私からは以上です。

湊市長

ありがとうございました。それでは嵯峨委員、お願いします。

嵯峨委員

はい、よろしく申し上げます。今回のプランは、この頃に子供であればすごく魅力的な大人になれたかもしれないと思って、とてもワクワクする内容だと感じました。子育てから児童生徒の教育、そして生涯教育に至るまで、教育大綱だったものを市の施策としてまとめている中で、2つ、イングリッシュディやギガスクール構想・ICTの活用が小中学校で途切れないで、将来的にそういったプレゼンテーションができるとか、将来に繋がって欲しいと思います。個別の希望になりますが、今やっているイングリッシュディの取り組みやICTの活用を生かした由利本荘市をPRするようなプレゼンをイングリッシュディで作ってもらって、学校単位でも地域単位でもプレゼンテーション大会をして、小さなうちに大勢の前で発表して、また、市のPR動画として活用するなど、英語とICTを組み合わせた取り組みができれば、子どもたちの力をさらに伸ばせると考えます。

あと少子化によって、文化部にしても、あの運動部にしてもやりたい部活の選択肢が狭まってしまっております。僕が小さい頃に思い出すのは新山小学校と鶴舞小学校にしか秋田県内・東北に男子バレー部がなくて、男子バレー部は新山小対鶴舞小で全国大会出場できていたんですね。最近モルックも始まりましたけれど、そのような特色のあるスポーツで、全国大会出場の可能性が高い競技を小中

湊市長

学校から取り入れることで、子どもたちの将来の選択肢を広げられます。

また、子育てに関して、子育て環境については、医療費の負担が少なく、非常に手厚い支援があることをもっと前面に出し、都市部からの移住促進につなげるべきだと考えました。以上です。

はい、ありがとうございます。

今、皆様方からお伺いしました。この後またフリートークしますが、私からも少し話をさせていただきたいと思います。

今まで由利本荘市の総合計画は、5年単位で作っていました。ところが、私、市長になって思ったのですが、市長の任期は4年なんです。なので4年で回っていかないといけない。次の新しい市長になった時に、その人の考え方を反映させるってことを考えると基本的には4年ごとに見直していくというのがやっぱり必要なんじゃないかということで、10年後の目指すまちというのは1つの目安として考えますが、見直していくのは4年単位でずっとやっていくということで今作っています。なので4年後にはまた考えていくというようなことになるのかなと思っていますが、今回の総合計画ですけども、「市民一人ひとりが希望を叶え自分らしく暮らすまち」というのを基本構想に掲げて、作成を進めさせていただいております。この中の教育の部分について、教育とは、私的にはやっぱり人づくりかなというような視点で少し見えています。この総合計画の中では、教育・人づくり政策での目指す姿で、「ふるさと愛に満ち、創造性ある人づくり」を基本にやっていきたいと思っています。ふるさとを愛する気持ちっていうのがあれば、いろいろなところに通ずると思うのですが、1つは最近、高校とか卒業して外に出られる方、たくさんおられます。それは別にそれでいいと思うのですが、いつか故郷をちょっと振り返ったり、希望としては、何年か後、十年後でも戻ってきてもらえるようなことになればすごく嬉しいなと思うこともあってですね。そこにやっぱり故郷を愛する気持ちっていうのをずっと持ち続けていただければなあと、そんな思いを少し込めたりしています。

あと、私も常々言っていますが、これからの子供たちにはやっぱり英語の力とITの力。これがあると自分たちのいろんな職業であったり、いろんな選択肢が一気に広がると。将来全く英語もITも使わない仕事に就く人も多々おられるでしょうけども、まずは他の市町村の子よりは、英語とITについては少しでいいので、由利本荘市の子は少し長けているとなればいいな。そんな思いを少し持っていたりします。

先ほども紹介しましたイングリッシュディとIT関係、県立大の本荘キャンパスがあるっていうのも、由利本荘市の大きな特徴の1つでもありますので、県立大の学生の皆さんにも、いろいろな場面

でICTの学びのアップデートプランもありますが、そういったところで、少し県立大の皆さんの力も借りるっていうのも、由利本荘市の特色になるのかなと感じておりました。そんな思いを込めまして、総合計画を作っておりますが、冒頭、教育長からは英語の関係を中心にお話いただきましたし、小坂委員からは、かなり具体的なご提言等々もいただきました。まさにその通りだなというふうに思っています。また、佐藤道昭さんからは、基本的にはかなりいろんなことを網羅されている中身ではないかといったような話であったり、環境を整えるということが大事であろうということ、また都度都度いろんな意見を言いながら、反映していけばいいんじゃないかということがありましたし、佐藤美帆委員からも詳しい人に色々やっていってもらった話だったり、外国語の、中国語とか幅広くという視点もあった方がいいのではないかという話であったり。嵯峨委員からも今の子供は羨ましい的な話から始まって、将来にしっかりとつながっていくような英語、ICTの関係であったり、そうした取組を紹介するようなPR動画の作成、紹介するようなことも力になるのではないかと。また、部活の関係の話もいただいたりしたところでありました。

そうした話を受けまして、何か皆さんからですね、お話を伺ってまいります。何かありますか。

はい、佐藤道昭さん。

佐藤道昭委員

はい、全体的な話なのですが、これは10年後を見据えてという話ではありましたが、でも4年ごとに直していくとすれば、これほど大雑把な文言ではなく、さらに具体的な文言で目標を立てるのも次回から可能なんではないかなと思いました。今回も具体的な文言を削った点がいくつかあります。もし4年だとすれば、その文言を含めても大丈夫なんじゃないかなという点が、そういうことを考えますと、今回はこれでいいと思いますが、もっと具体的な施策も次回からあってもいいのではないかとというのが1つありますので、いかがでしょうかと思いました。

湊市長

ありがとうございます。まあ確かに4年毎ということ。目指す姿に今後具体的なものがぶら下がっていくと思うのですが、その辺はどんな感じですか。

熊谷教育次長

今のところ、その目指すべき姿に向かってどのような具体的な事業、個別の事業をやるのかっていうのは、これからそれぞれの施策毎にまとめていく段階です。個別事業については当然いろいろと見直しをかけながら、目指す姿に向かっていくにはどのような事業が必

要かってあたりを、この後、事務方で事業内容も含めて進めていくということになります。

湊市長

はい、道昭委員が言うように、名が体を表すではないですけども、パッと見て、こういうことするんだなっていうのはイメージできるような文言っていうのも大事だろうなって思います。その辺も少し研究させていただきながら、反映できるところはしながら、もしくは次回ということになるかもわかりませんが、ちょっと考えさせていたきたいと思います。他に何かありますでしょうか。

はい、小坂委員。

小坂教育長職務代理者

創造性あふれる人づくりということで、ここで書かれているのは、県立大のことで、地域の方とで交流することだけなのですけども、それだけでは創造性あふれる人にはならないのではないかなということ、科学フェスティバルとか、科学に力を入れるっていうのが、前にはあったんですけども、創造性をあふれる人づくりをするには、由利本荘市を生かしたものでっていうものが何かあると、やっぱり地域性を生かして、そこを磨くことによって、創造性あふれる人が生まれるというようなものがあれば、素晴らしいなと思いつつながら、自分でもなかなか思いつかず、ここで立ち止まってしまったんですが、アイデアのある方に教えていただければいいなと思いました。

湊市長

先ほどのご発言の中でも、割と古い言い回しっていうのかな。もう少し現代的なというか、今やっているような言い方もあるのじゃないかっていうご意見もいただきましたし、今の創造性ってあたり、確かにもう少しこうグッとくるというんでしょうか、言葉の言いまわし、その辺は何かいいのいいですかね。

もし教育長も意見なんかあれば

秋山教育長

はい、私自身が思うのは、創造性という中には多様性とか、この文言の中に結構あるのですけれども、「ひとりひとりが違う」、その違いをどう生かすかっていうところを膨らませていくっていうのが、これからの教育にはとても大切になるのではないのかなと私自身は思っています。クラスの中にもたくさんのいろんな子供がいて、今までは1つの方向に向かっていたのだけれども、そうじゃなくて、一人ひとりの良さをどう生かすかっていうのが、私たちのこれからの教育の宿題のようなもので、それを具現化する言葉っていうのを入れ込んでいければ、いいんじゃないのかなっていうふうには思っ

てます。

湊市長

いろいろご意見いただきました。今出している計画が決定では全くないので、皆さん方から今、出していただいた、先ほどの佐藤道昭さんのご意見なんかも反映するとか、もう少し具体的に入れるとか、皆さん方の意見をできるだけ取り入れていきたい。そのほかにもあれば、皆さんからも伺ってまいりたいと思いますが。

特にないですかね、ありがとうございました。

今、お話いただいたことは、しっかり検討しているのですか、前向きやりますし、もし今日この場でお話にならなかったことでも、後で何か気づくことがあればですね、教えていただければ。先ほど示したスケジュールの流れで、これからやっていきますし、次、また出来上がりを皆様方に、今言ったようなことも含めてですね、盛り込んだもの等々、お示しをさせていただいて、さらにご意見等々もいただくという場面もありますので、そうしたことで進めていきたいと思っています。

ここまでで、何か教育長、発言ありますか。

秋山教育長

今までのこのご意見をいただきながら、私たちが考えていかなければいけないのは、ICT、ITについてもそうだし、英語についても外国語についてもそうだし、新しいものにチャレンジしながら、それをどう子供たちに生かしていくか。最後には子供の変化がなければ、私たちのやっていることっていうのは意味をなさないと思うので。具体の姿にどう持っていかってというのは、先ほどの意見を参考にしながら、もう1回検討し、先生方とも話しながら、具体の施策に落とし込んでまいりたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。以上であります。

湊市長

はい、ありがとうございました。

それでは協議については、大体よろしい感じでよろしいでしょうか、ありがとうございました。

そうすれば大きい4番、その他ということで、せっかくの機会がありますので、今回の議題に限らずですね、なんでもどんなことでもありです。皆様方からも一言ずつでもいいですし、少しお話を伺ってまいりたいと思います。

小坂教育長職務代理者の方から伺ってよろしいでしょうか。

小坂教育長職務代理者

はい、よろしくお願ひします。

何でもいいっていうのでしたけど、この大綱の「喜びあふれる子育て

て環境づくり」っていうところなのですが、ある時、テレビを見た時に子育てに優しいっていうことで、保育園にまだ子どもを預けないで母親1人で子育てしていると、美容院に行ったり、自分も病院に行ったりするときに、子どもをどこにも預けるところがないっていう、そういうことを特集した番組だったんですけども、大家族で、おじいちゃんおばあちゃんに子どもを預けることができない、そういう母親たちが子育てをするときに困らない、そんな子育てに優しいまちづくりっていうのをアピールすることで、由利本荘市で子育てしようかなって考えるお母さんたちがいるのではないかなと思ひまして。最初、私にかほ市で勤務していた頃に、にかほ市で初めて医療費が安くなった時に、医療費が安くなったということで転校してくる子どもがいたんですね。子育てに優しいということで、にかほ市に移住してきたっていう保護者の方がいらして、それだったら由利本荘市はもっと優しいというか、そういうお金の面だけではなくて、1人で美容院に行きたい時に、保育園に預ける権利はないんだけども子供をちょっと保育園に預けることができる、こういうのをなんていうか、ちょっと勉強不足でわからないんですけども、そういうお母さんって意外とたくさんいらっしゃるのではないかなと思ひて。働いてはいないのですが自分も何か用事があるので、そういう子どもたちをちゃんとケアしてくれる、そういう子育てに優しいまちづくりっていうのも施策の1つに入ると、若い女の人の暮らしやすいまちになれば、きっと人口も増えるのではないかなと感じます。若いお母さんとしてはいかがでしょうか。

佐藤美帆委員

そうですね、女性が暮らしやすい子育てしやすいまちっていうのは、見ていてやはり気持ちがいいなと思ひます。やっぱりみんなご機嫌でいられるまちを目指せばいいなと思ひています。

私は、働き方改革についてしばらく考えを巡らせていたのですが、教育委員の先生たちともお話ししたのですが、実は教育委員会で秋の学校訪問が今年なくなりました。私はその時思ひたことといえば、あまり大きな声では言われませんが、良かったと思ひました。

教育訪問では、きっと先生たちも普段の業務を止めて、私たちを迎えるいろんな準備をして努力されているから、良かったと思ひたんだろうなと思ひました。その分ですね、9月は自分のことをたくさんすることができました。そのことを踏まえて、働き方改革というのは地域にとってとても大きなメリットがあると感じました。良識ある、例えば市の職員や教育に携わっている方々が地域に解き放たれたら、もうものすごいメリットしかないですよ。別の活動で地域に貢献してくださるはず。ですので、働き方改革、本来の仕事の短い時間の中でやるっていうのも、かなりスキルいることなんですけれども、できた時間でいろんなことに挑戦してみる、それこそ創造性あふれるような地域がまた形成されるきっかけになってい

くのだろうと思っております。私からは以上です。

湊市長

それでは次に佐藤道昭委員。

佐藤道昭委員

この間、ゆりほんテレビ見ていましたが、授業風景が流れていまして、鶴舞小学校だったかな。それを見た時に、子どもたちが楽しそうに授業している。私が行っても割と楽しそうにしているんですが、それ以上に楽しそうに授業している風景をゆりほんテレビでやってくれたんですよね。ところがあれはユーチューブでは多分やってないと思うのですが。と言いますのは、あれを見た親とか子どもたちが他から由利本荘の教育というか、学校いいなと思って来てくれるのじゃないかなという、そういうところを思ったりもしました。それこそプライバシーやら何やらで、結構撮影って難しいって話もしたのですが、ああいうのは必要ではないかと思えます。要するにゆりほんテレビとユーチューブ、そういうのを使って、もっと教育現場というのをもっともっとPRすると、他よりもいい由利本荘市の教育現場を見ることができて、そしてもしかしたらそこで子どもたちを育てたいと思う親が増えてくれれば面白いなと思ったのは1つです。

また、例えば英語に関しましても、由利本荘市のPRをALTの先生をはじめ子どもたちを使って市のPRを英語でもらって、それを流すのもまた1つ。それを見た子ども達がまたさらに英語が好きになるのじゃないかなと。そういう相乗効果まで期待しているところがありますので、こういう意味ではもっともっと使ってもいいのじゃないかなと。その辺、もしできればちょっと考えていただきたいなということが1つです。

もう1つ、先ほどから言われています、働き方改革っていうのは確かににありますが、教職員の減少をストップする。子ども達も減ってはいるのですが、教員は最低限の数は確保しなければならないんですよ。それも大きいと思います。そのためには、要するに働き方改革で教員の負担を減らし、ここの地域であれば先生方も少し授業に集中できるような、そういう環境をもう少し作っても良いのじゃないかと。そのためには、例えば放課後のことを地域、また部活に関しても地域の方々の協力をいただいたり、授業に関しましても、地域のOBの先生、まあ今でもやってもらっていますがね、そういう先生方や生活サポート、教育サポートの人たちを増やすことによりまして、先生方の負担を少しも減らして授業に集中できる環境を作れば、ここで先生になってもいいんじゃないかという人が増えてもらえるんじゃないかと思えたので、それめかなり面倒な仕事だと思えますが、今後考えていきたいと思っておりますので、ご協力よろしくお願ひいたしますということです。

湊市長

はい、ありがとうございます。それでは嵯峨委員。

嵯峨委員

ありがとうございました。この由利本荘市総合計画の原案を見ても、やはり中長期的なプランになるので、具体策っていうのはなかなか書きづらい、何書いているかわからない文章っていうのが長くあるのが、やはりこういう総合計画ってなると思うんですけど、あまり強すぎると今度味付けできなくなってくるっていう問題も、道昭さんが先にその話をされてたと思うんです。10年先を見据えてってなるとっていう。そのフローチャートを見ると、4年ずつ10年先を見直しながら作っていくっていうことで、長期プランだけじゃなくて、短期中期のプランをもう少し詰めてもいいんだということをお今日のこの会で理解しました。勉強になりました。

あと、毎月の定例会で地域の報告を伺っていると、伝統文化だとか、そういったところに子ども達がもっと早いうちからはまってくれば、その継承者が育ったりとか、そういった特色のある子ども。それこそ守破離ですけど、英語でそういった文化を継承していけるような、英語で、まあ外国語でいいんですけども、そういったところに化けていく子ども出てくるかもしれないなと思ったりしています。

あと、最近、子どもたちの通学路に熊だけじゃなくてイノシシやらニホンザルやら、いろんな動物が出てきたなというところで、新しい通学路に関しても、結構旧市街地でも動物出てきますので、子ども達の安全を配慮していただければと思いました。ちょっと関係ない話ですけど。

あと、感染症が依然として季節性を持たずに発生してまして、冬に流行るインフルエンザは9月に青森から大館、そして関東に結構出てまして、秋田県ではあんまり聞かないですけど、少し秋田市でも出たりしているみたいですね。まあ、そういったところも引き続き、やっていければと思います。

湊市長

はい、大変ありがとうございました。

子供を預かる場所等々、やっぱりその通りだなと思いました。いろいろ検討して、パッと預けられるのが理想ですよ、それも考えます。ご機嫌でいられるってあたりがよかったですけども、あと働き方改革の関係とか、多分学校訪問、良かったと学校側で思っていますから、大丈夫です。ぜひ学校の現場もご覧いただいて、いろんな忌憚のない意見をぜひ聞きたいなっていうのもありますのでよろしくお願いします。

道昭委員からも、私どものところに県立大があるっていうのが1

つの特徴だって言いましたが、同じようにゆりほんテレビっていうのがあって、これも他にない、あの人たちはプロなので編集とかすごくてですね、ユーチューブなんかにあげるのも大変見栄えのいいものが出来上がるのです。いろいろな由利本荘市の特徴的ないいものをどんどんやるのはいいなって思いますね。今、指定管理っていうことで、秋田ケーブルテレビにお願いをしていますけども、中身について別に全く私たち何も口挟めないというわけではないので、いろいろな興味の中でより良い番組を作っていくっていう方向でやっていきたいと思います。

また、嵯峨委員からも、計画の10年後の姿に、ぶら下がってくる具体的なものがずっと出てきますので、その辺のバランスはこれから考えていけばというふうに思います。クマとイノシシ、猿とかですね。正直心配です、人的被害については、実は大内の方で1名、おられましたので、この後も心配です。ただ、行政としてやれること限られていましてね。打つ許可は市町村長が出せると今、法律変わりました。かわいそうだとか、いろんな保護団体の方々も多々おられるんですが、私はもうはっきり言ってですね、打ってもいいかって聞かれれば打ってって言います。迷ってられないです。万が一、人に何かあったらですね。なので、許可については、私に問い合わせが来たら、躊躇なくやれということをおっしゃっています。もちろん、その環境、安全な状況でとか、そういうのはもちろんありますけども。それについてりかなり苦情が来るのも、覚悟しないといけないかもわかりませんが、子ども達に限らず市民の命に関わることなので、そこについてはご理解をいただいとっては思っていますが、いずれ熊についてもどういう対策、これは県とも色々協議しながらですね、やっていきます。

感染症の関係もその通りですね。うがい、手洗いあたりがまず皆さんがしっかりやるというところなのかもわかりませんが。

いろいろと進行させていただきましたが、またご発言の後にいろんな人の話を聞いて、ぜひっていうのが何かあれば伺いますが、特に大丈夫ですか。

教育長どうですか、お願いいたします。

秋山教育長

先ほどのお話を聞いて1つ思ったのは、矢島高校が今、県外からの留学のため取り組みをしています。前に1人来て、この間3人来て。その子たちってやっぱり自分の居場所が欲しいし、なんか前向きだったり。あと由利鉄がすごくアピールが強かったりとか、いろんなこう自分を生かせる場所を探しているのだなというふうに思いました。幼児であれば、東由利のえみの森さんが外からの人を受け入れてっていうような、いろんな取り組みをしていることを、みんな協力しながら広げていって、由利本荘市の良さ、教育の良さっていうものをアピールしていくっていうのを、私たち委員会として

も取り組んでいかなければいけないというのは、先ほどの話を聞いて思いました。

湊市長

ありがとうございました。それでは皆さんから色々のご意見等々も伺いました。先ほど触れましたが、いただいたご意見等々については、こちらの総合計画の方に落とし込んでですね、進めてまいりたいと思いますので、引き続きいろいろのご意見等教えていただければなというふうに思います。

それでは私の進行は以上ということで、また事務局の方に戻したいと思います。大変ありがとうございました。

三浦総務課長

皆様の活発な意見交換、誠にありがとうございました。先ほど市長からもお話ありましたとおり、本日いただきましたご意見は、次期教育大綱に反映させながら調整させていただきまして、11月に開催予定の第2回の総合教育会にて再度お諮りさせていただきますので、よろしくお願ひしたいと思います。

なお、次回ですけども、11月27日の木曜日午後3時から予定をしておりますので、お知らせをさせていただきます。

以上、これもちまして、令和7年度の総合教育会議を終了いたします。本日はありがとうございました。

【16:24 終了】